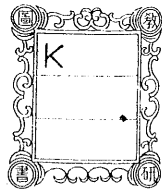


小學初等作法書

西川文仲編



西川文仲編

第一級

小學初等作法書

教科書出版所 大黒屋書舗

小學初等作法書卷五

西川文仲編

父母兄弟病むある時。朝夕必む其安否を伺ふ。昼

○幼年の時より男女の別を正しくまぶべきことを心づく

昼

○まべり多言を戒むべし。  
 ○何人よ。對しるる。受け答への言葉も。一々慥りよまを履し。  
 ○人の家よ。入らんとまを履し。ま。まづ訪聲をあげて。後よ入る履し。  
 ○人の家へ。行きまハ。あふま

まぬこを。見回まふの也。  
 ○人の家よ。行きまを。其家の器具飲食。いのふ阿くとも。決して。おれを言ふ。いぬまふの也。  
 ○物を拾ひたる時。直ちに。父母長者。又ハ警察官。小。差し

出どまをへし

○天皇を。無上の至尊ふせを。拜し奉る時ハ。尤も尊敬を。法くまべし。

○皇后皇子皇族を。拜し奉る時ハ。前と同しく。敬禮まべし。  
○大臣参議等を見るときハ。又

敬禮まをへし。

○卿輔議官將校。又ハ府知事縣令等。まべし。官位ある人ハ。對する時ハ。敬禮まをへし。心得べし。

○警部巡查ハ。皆吾等を護る。職分の人ふせを。失禮まをへし。

らむ。

○皇居宮省及びまをべとの役所ふどの。前よ於る。不敬の振る舞ひを。あまをべのらむ。

○御陵ハ勿論神社佛閣又冬古の忠臣孝子の墳墓等ハ尊敬を加ふ。

○祝日よ逢を。國家の長久天皇の壽考を祝し奉り。決きよ父母長者へも。夫々慶を陳ぶ。

○まをべ祝儀の席よる。喜び勇み。賀辭を陳べ。不吉なる言葉を。つらざるやうよ。

心のく屋

作法書卷之五終

K 110.11-10

明治十六年十二月廿日 版權免許

正價金三錢

近刺教科書目  
 小學初等作法書  
 新撰小學書牘  
 初等修身書首卷  
教授用  
 中等修身書  
 新撰小學地誌  
 學校用珠算書  
 猶續々出版

編者

滋賀縣士族  
 西川文仲  
上京區第拾壹組真如堂前町五番地寄附  
 京都府平民

出版人

大黒屋太郎右衛門  
上京區第廿一組下丸屋町三番戸

發賣所

京都河原町通二條下二丁目

教科書出版所

大黒屋書舖